

# 私たちは求められる施設像を的確に把握し、賑わいのある魅力的な道の駅の設計を行います。

## 1 業務実施における着眼点

道の駅の機能として次の4点を考慮し計画します。

- ①利用者への情報発信機能と休憩機能があり、地域情報の拠点となり地域の顔になります。
- ②産業振興機能として、産直販売をはじめとして地域生産材の販売増とPRが可能になります。
- ③防災拠点機能があり、万が一の大災害が発生した場合東北大地震の例でも安心安全を求めて大挙人々が集まります。また広域の一時避難場所として活用するケースも想定されます。
- ④地域連携機能として新たな公共的サービスがあります。道の駅では地域生産者とダイレクトにつながった流通システムが構築され、地域のネットワークがすでに出来上がっており、これを生かしたサービスが考えられます。行政の庁舎内ではなかなか難しい具体的な活動が、農産物の供給や買物で地域の人が集まる道の駅では可能で、より一層のいきがいやコミュニティを形成することができます。

そして当道の駅の機能が一層充実するためにも、市内外から人々が集まり賑わいがある施設となる事は大変重要で、そのためにまずは来て頂く施設のつくりとして次の3つの視点を大事にします。

### ■安心感があり導くつくり

- ・一目でどこに何があるかわかるレイアウトで人々を導きます。
- ・起伏に富んだ柔らかいフォルムで人々を導きます。
- ・やさしさを感じる木質空間で人々を導きます。



### ■地域と調和しながらも目を惹くつくり

- ・面積以上に大きく見える連続感のある施設とし視認性を高めます。
- ・玄関に唯一無二の特徴的なフォルムを設け際立ちます。



### ■求心性があり一体感のあるつくり

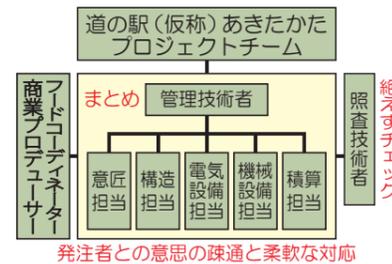
- ・広場を中心点とし全体を巻き込むようなつくりとします。
- ・輪を描くような施設レイアウトで一体感を高めます。



## 2 業務の実施方針

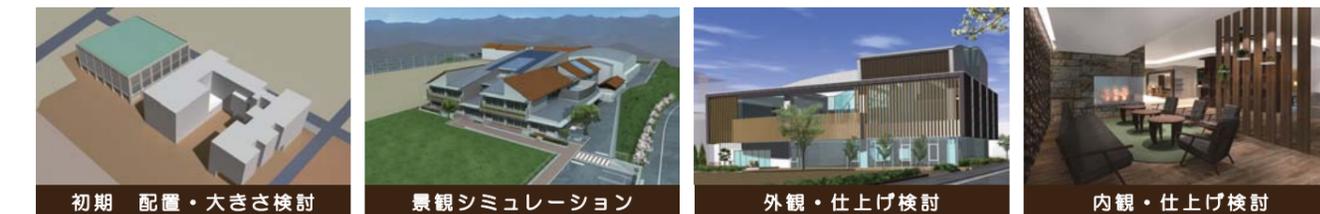
### ■実績を生かした素早いまとめ

- ・弊社はこれまで多くの道の駅等の商業施設設計に取り組む事ができました。現在工事中の道の駅もあり、例えばバリアフリーに関する最新の内容も把握しています。この経験を生かし「道の駅(仮称)あきたかた」の整備に向けてチーム全員が即応性・機動力を持ってスムーズに業務を遂行します。
- ・商業プロデューサー・フードコーディネーターなどの専門家と連携し、各施設の性能が最大限発揮されるプロジェクトチームを編成します。特に消費動向を決める女性視点のブランディングが重要であると考えます。
- ・社内の意匠、構造スタッフ及び協力事務所との連携により、基本設計、実施設計各段階での技術検討、デザイン検討、コスト検討、設計品質管理を行います。



### ■徹底したシミュレーションによる完成予想

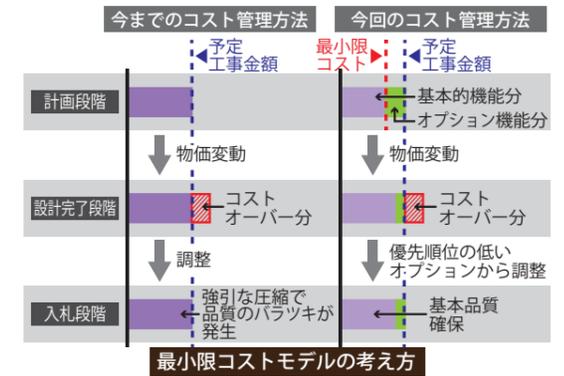
- ・弊社では、初期段階のボリューム検討から最終段階の仕上げの検討に至るまでCG(コンピューターグラフィックス)を積極的に活用し、完成までの過程が実感できるようにします。
- ・CGはすべて社内で作成していますので、リアルタイムかつ綿密な検討が可能です。



## 3 業務の実施手法

### ■確実に落札へと導くコスト管理

- ・建物が機能するために最小限必要な構成となる“最小限コストモデル”を設定し、その他を“優先順位付のオプション機能”として区分することで、交流拠点施設のベースとなる重要な部分をキープして品質の確保と入札段階でのコスト調整を容易とします。
- ・今回の業務では、最小限コストモデルの構築とオプション機能の優先順位づけを行い基本設計から実施設計につなげます。



### ■基本設計段階のコスト管理の徹底

- ・基本設計における柱スパンや階高の設定など、空間の骨格を決める初期段階における決定事項がコストに大きな影響を与えます。そのため基本設計段階で、事業費に見合った設計となっているかを細かくチェックします。

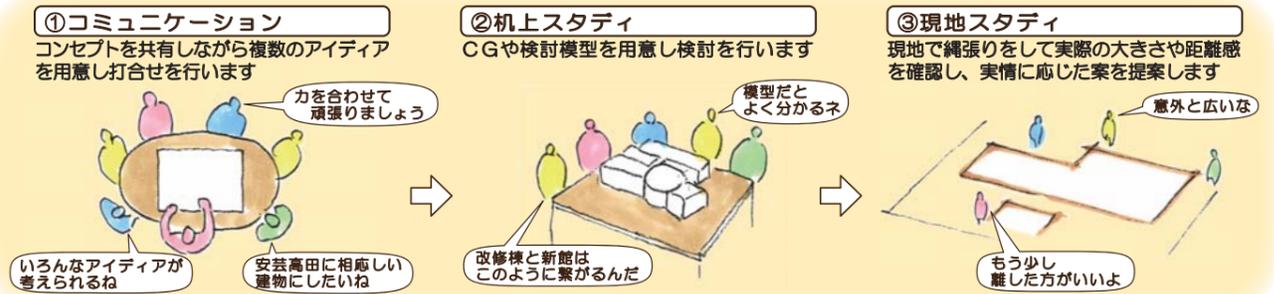
### ■課題を整理・精査し、正確に伝達する体制

- ・近年の設計業務は通常の図面作成のみならず、さまざまな諸条件、要望を取りまとめる必要があります。その複雑な課題を一元化して整理し、関係者の方へ正確な情報を伝達する体制とします。



### ■コミュニケーションとスタディを重視した実施体制

- ・施設に対し利用者がどのように感じるかをイメージしながら、絶えずコミュニケーションとスタディを繰り返す実施体制とします。



## 4 業務フロー及び工程計画

### ■ポイントをおさえた工程

1. 綿密な条件の分析・整理を行い手戻りがないようにします。
2. 手際よく要望事項をまとめ、方針を決定します。
3. プランニングを固め、詳細図の作成を行います。
4. 総合会議を定期的に行い、進捗状況を報告します。

### 工程表 的確な調整・分析・段取りで、設計をまとめます。

平成29年度		8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
		基本設計			実施設計					
		条件の分析・整理	課題の調整・解決	まとめ	詳細設計		コスト	調整	まとめ	
要望調査		要望事項まとめ								
法規		法規チェック・関係機関調整								
機能	プランニング・デザイン	方針検討	基本図作成		基本まとめ	詳細図作成				調整
	構造	方針策定・工法検討			基本まとめ	構造計算・構造図作成				調整
	設備	基本設備の策定		方針検討	基本まとめ	詳細図作成				調整
	環境対応	環境技術の検討		詳細検討		基本まとめ				
地質調査		調査								
コスト		調査								
総合会議		●	●	●	●	●	●	●	●	
説明会		●								

# 未来の里山人々の営みを紡ぐ道の駅



【図1】全体イメージ



【図2】配置イメージ

## 課題1 安芸高田市らしい交流拠点の核となる施設整備について

### 【a. 安芸高田市を象徴する施設として周辺景観に調和した施設】

- 当施設は安芸高田市のランドマークとして
- ①里山の風景を建物全体のフォルムに取り入れ、懐かしく馴染みのある景観を表現します。
  - ②大地から湧きたつようなイメージを起点とした建物を数多く設け、大地の恵みである農産物のイメージと連動します。

### 【b. 農産物等や加工品等の販売につながる施設整備】

- ①産直スペースは安芸高田の大地から生まれる豊かな恵みをふんだんに生かし、“日本初お野菜フードパーク”を展開する商品の展示や調理方法を含めた提案が可能な仕組みを構築します。
- ②レストランや軽食部門で産直の農産物や加工品が提供できる仕組みとします。

### 【c. 人を呼び込む交流拠点の核 交流人口の増大を促す施設整備】

- ①ミニイベントを含め多彩なイベント企画を開催します。農産物のイベントはデモンストレーションのような形とし、本格的なイベントは市内の各所と連動する仕組みとします。
- ②市内の既存施設や現在企画中の安芸高田市周遊性促進事業である田んぼアート整備事業との連携を検討し、市の活性化に最大限配慮します。

### 【d. 地域住民が積極的に活用できる施設】

- ①地域の商品を提供したり、イベント時には主役として地域の方の活躍の場となり、地域の活性化をもたらします。
- ②健康面の気になる部分を克服する手立てとなるような食事やスープ、飲み物を開発提供し、食に関する地域の健康増進の拠点化を図ります。
- ③木育キッズルームや遊び場、広場を設け、何度も家族で訪れて過ごしやすい場とします。

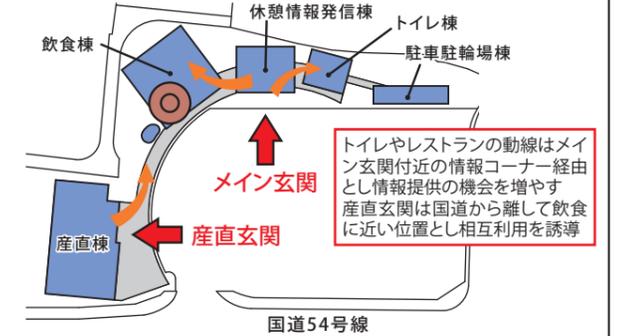
## ■配置イメージ

### ■つながる施設群

- ・国道54号線沿いにある産直棟から南西端の駐輪場まで約170mの距離を連続する施設群とし、つながりと一体感を表現します。
- ・各施設をつなぐ遊歩道を設け、屋根付きで天候に左右されず行き来が容易となります。

### ■相互利用を促す

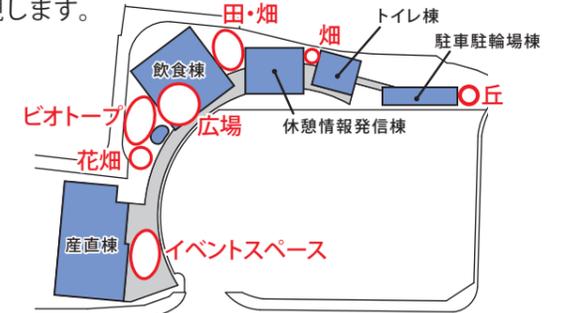
- ・メイン玄関は情報・展示コーナー付近に設け、休憩スペース・レストラン・軽飲食・トイレを隣接することにより、トイレのみの利用にとどまらず利用の連動を促します。
- ・産直市の玄関は現在の国道寄りではなく、レストラン寄りとし、相互利用を誘導します。



【図3】玄関と人の動きのイメージ

### ■建物と建物の谷間スペースに魅力的空間

- ・建物間に畑、ピオトープ、休憩コーナー、キッズスペース、遊びの広場を設け、変化に富んだ人が集うスペースとします。
- ・里山をイメージする起伏のある丘を設け、懐かしい風景を再現します。



【図4】建物と建物の谷間スペースイメージ

### ■利用しやすい駐車スペース

- ・思いやり駐車場を産直棟側にも設け利便性を向上します。
- ・ノーバック駐車向きをそろえスムーズで混乱が少なくなる事を検討します。
- ・混雑時の予備駐車場を敷地内外に検討します。
- ・産直市の手前に買い物を積み込む一時駐車スペースを確保します。

### ■デザインイメージ

#### ■目を惹く躍動感のあるつくり

- ・連なり重なりあう曲線屋根を設け、地上から隆起した丘のようなイメージで懐かしい里山の原風景を表現するとともに、未来にはばたく様子をデザインします。
- ・休憩情報発信棟のメイン玄関には三本の尖がりシルエットで、木の並木や三本の矢を連想させるデザインとし特徴付けを行います。
- ・既設産直棟は既存のフォルムを生かしつつ、新設と色合いが馴染むようにデザインを整えます。

# 大地の恵み 遊歩道でめぐる道の駅



概略室内面積表 [㎡]	
産直棟	800
キッズスペース棟	30
飲食棟	435
休憩情報発信棟	260
トイレ棟	160
駐車駐輪場棟	180

※但しバックヤード、遊歩道、イベントスペースの屋根架け部分は面積に含まず

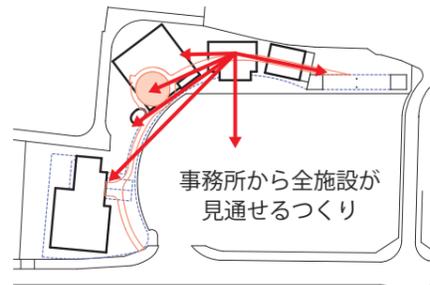
## ■平面イメージ【図5】

### ■楽しみながら施設をめぐる

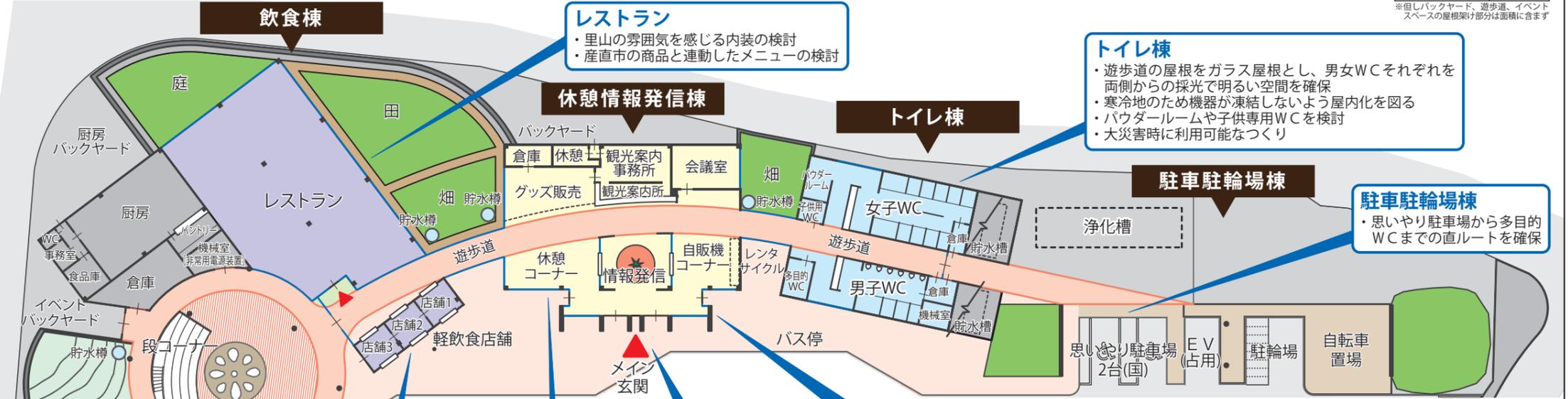
- ・遊歩道沿いに変化に富んだ空間や外構を設け、楽しみながら移動できるようにします。
- ・野菜をテーマにしたデザインを各所に施し、より一層農作物を身近に感じるとともに当道の駅の特徴とします。

### ■視線が通るつくり

- ・事務室から各所へ視線が通り見守りが可能とします。



事務所から全施設が見通せるつくり



## イベント・キッズスペース

## バックヤード

- ・屋根架けで納品や片付けが容易なつくり

## 産直棟



国道54号線歩道

## 飲食棟

## レストラン

- ・里山の雰囲気を感じる内装の検討
- ・産直市の商品と連動したメニューの検討

## 休憩情報発信棟

## トイレ棟

## トイレ棟

- ・遊歩道の屋根をガラス屋根とし、男女WCそれぞれを両側からの採光で明るい空間を確保
- ・寒冷地のため機器が凍結しないよう屋内化を図る
- ・パウダールームや子供専用WCを検討
- ・大災害時に利用可能なつくり

## 駐車駐輪場棟

## 駐車駐輪場棟

- ・思いやり駐車場から多目的WCまでの直ルートを確認

## 軽飲食店舗

- ・内部側にも窓口カウンターを設け悪天候時も販売し易くする

## メイン玄関

- ・駐車場のセンターに設け、バス停に近く利便性を高める

## 休憩コーナー

- ・玄関ホール沿いに設け一体感と広がり演出

## そらまめルーム (キッズ用休憩コーナー)

- ・木のおもちゃを用意しキッズの休憩スペースとして特色を出す
- ・木を子供の頃から使うことで豊かな心を育てる空間を提供する



【図6】そらまめルームイメージ

## 遊歩道

- ・産直側の国道から南西の駐輪スペースまで連続する屋根付きの遊歩道を設け利便性を高めると共に、建物と建物間に色々な仕掛けを設け、楽しみながら移動できるようにする

## 情報発信コーナー



【図7】情報発信コーナーイメージ

## イベント・キッズスペース



【図8】イベント・キッズスペースイメージ

## 思いやり駐車場

- ・産直市近くにも屋根付きで設け利便性を向上

## 産直市

- ・スクエアな形で商品配置が容易で回遊性を高める
- ・適切なレジ配置で管理がしやすい

## 産直棟イベントスペース

- ・産直市の国道付近に屋根付きのイベント広場を設け、道行く人や車に賑わいを演出



【図9】産直棟側からメイン玄関を見たイメージ



【図10】国道54号線から見たイメージ



【図11】産直市イメージ



【図12】レストランイメージ



【図13】休憩情報発信棟メイン玄関イメージ

今となっては当たり前で改めて注目される機会が少ない地域固有の食や文化があり、それを道の駅へ持ち込む事で、地域の人にとっては楽しさや便利さだけではなく、長年生活を共にした安心感や懐かしさがあります。市外からの来訪者にとっては安芸高田の個性を感じる事となります。

**地域の生活様式の中で生まれた食や文化を、そして人々の営みを未来へ紡いでいく道の駅とします。**

## 課題2 利用者にやさしい施設整備について

**【従業員を含む施設を利用するすべての人が安心して安全に利用でき利便性の高い施設】**  
 段差なく目的の場所に行けるようにすると共に、一目でわかり易い動線とします。また視線の抜けをつくり、心理的なバリアフリーも考慮した施設とします。

### 1 利用者目線の細やかな配慮

#### ■安全性の高い駐車場

- ・バスや大型車と一般車を分離し、一般車両はノーバック駐車を基本とします。
- ・一般駐車場内では人の気持ちに沿った動線で誘導する色付歩道を設け、安全性に配慮します。
- ・屋根付きの思いやり駐車場をトイレ棟と産直棟近くに設け、安全性と利便性に配慮します。

#### ■バリアーを感じないづくり

- ・感覚的に一目でわかるゾーン構成とし、自然に誘導されるようなやさしいづくりとします。

### 2 使用者目線の細やかな配慮

#### ■運営や生産者に活力を生み出す仕掛け

- ・喜びやもてなしのような気持ちが湧き上がれば明日への活力、地域の活力へ繋がると考えます。
- ・運営者や生産者の方の気持ちを大切に満足度を高める施設づくりとします。
- ・バック動線に配慮し、無駄な動きがなく業務に集中できるようにします。

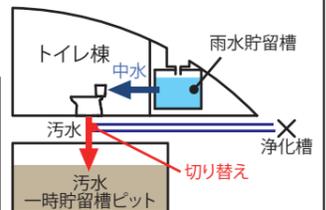
項目	仕組み	気持ち面の効果
生産者への励み	生産者の名前や顔写真を掲載し、安全・新鮮さをアピール、お互い切磋琢磨する仕組み	つくる・理解してもらって喜び
名産品開発の起点	開発の様子が一般の方にも見え、即味わかる仕組み	開発・創造する喜び
積極的なイベント交流	即イベントが行える利便性の高いイベントスペースで市内外の人との交流促進する仕組み	出逢いの喜び
屋台コーナーの出店	即出店ができる利便性の高い場所を提供し、地元有志の方への場所貸しができる仕組み	店を持ち食べてもらう喜び

### 3 エコロジーな空間づくり

#### ■太陽光発電システムと雨水利用システム

- ・大屋根に太陽光発電システムが設置できるようにし、また雨水を溜め活用できる仕組みをつくり、自然を活用した施設とします。

非常時のトイレの仕組み  
 【大災害時浄化槽が破損し上水も遮断した場合】  
 ①常時雨水を雨水貯留槽に溜めておく  
 ②トイレの洗浄水に雨水を利用  
 ③汚水は切り替えにより一時汚水貯留槽に溜める



【図14】非常時のトイレイメージ

### 4 大地の恵みを感じる

#### ■日本初お野菜のフードパーク

- ・あきたかたの大地から生まれる、豊かな食をテーマにしたやさしさあふれる日本初の野菜に関するフードパークを検討します。
- ・日本の伝統的食事の再興、保存、維持、継承を行うとともに次の時代に向けたフードメニューの開発を行います。

あきたかたの大地の呼び声  
**あきたかたの大地から生まれる豊かな食をテーマ**



今となっては当たり前で改めて注目される機会が少ない地域固有の食や文化があり、それを道の駅へ持ち込む事で、地域の人にとっては楽しさや便利さだけではなく、長年生活を共にした安心感や懐かしさがあります。市外からの来訪者にとっては安芸高田の個性を感じる事となります。

**地域の生活様式の中で生まれた食や文化を、そして人々の営みを未来へ紡いでいく道の駅とします。**